

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年11月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4098100011
法人名	社会福祉法人 朋寿会
事業所名	グループホーム 第2夢想園
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡黒木町大字土窪1832 (電話)0943-42-1030
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年10月2日

【情報提供票より】(平成20年7月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人

(2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	300 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有() 円	<input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成20年7月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	原医院、木下歯科医院、船小屋病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、山青く水清き豊かな自然に恵まれた山紫水明の里に立地している。周りには田んぼや畑が広がり、四季折々の変化が楽しめる。法人代表のゆかりの地に、高齢者福祉へ貢献したいとの思いから、平成18年に創設されたホームである。利用者の表情は生き生きとして明るく、職員は利用者の思いを最優先し家族のように接している。明るく広々とした環境で、利用者がゆったりとんびり過せるように支援している。地域の高齢者をホーム行事に招待したり、近所のいちご狩りに出かけたりしながら、地域の一員として地域に根付いたホームとなるよう、一步一步努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題として地域密着型サービスとしての理念の見直しを行い、職員全員で話し合い「むかしながらの住み慣れた場所で、顔なじみの人たちと一緒に、今までどおり暮らしていく」との理念を掲げた。また、運営推進会議を通じて災害時の地域の協力を呼びかけ、地元消防団へ協力をお願いした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員に資料を配布して意見や気づきを出してもらい、管理者がとりまとめを行って作成している。自己評価は日頃のケアの見直しや振り返りの機会として活かされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政の担当者、地区老人会・女性の会代表、民生委員、利用者や家族等の出席を得て、ホームの開設当時から2ヶ月に1度定期的に開催されている。ホームの状況や行事を報告し、地域の情報や運営に関する意見をいただいている。町と連携し実習生やボランティアを受け入れ、地域の祭りに参加して町の福祉大会にも利用者の作品を出品している。また、資料を準備して後期高齢者医療制度などの学習の機会としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の面会時に日頃の様子を報告するとともに、月に一度は定期的に電話連絡を行っている。年に4回ホーム便りを発行し、家族へ送付している。大きな行事や利用者の誕生日には家族に参加を呼びかけ、懇親会を開いて家族の意見や要望を聞き取っている。ご意見箱を設置して家族以外の意見も受け入れるようにし、出された意見は職員全員で検討してサービス向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の自治会に加入し、会長さんの訪問や広報紙の配布を受けている。年3~4回のホームの大きな行事には、地区のひとり暮らし高齢者を招待し、地元の祭りに参加したり、近所のいちご農家の好意で、家族とともにイチゴ狩りを楽しんでいる。季節の桜や藤の見物やホーム周辺の散策で地域の人々と交流し、地域の一員として地域に根付くホームを目指して努力している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で理念の見直しを行い、「笑顔で健やかに和やかに、私らしく生きる」「お互いを思いやり楽しく過す」「むかしながらの住み慣れた場所で、顔なじみの人たちと一緒に、今までどおり暮らし続ける」という、地域の一員として地域に根づくホームとしての新しい理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全員が集まる食堂の見やすいところに掲示し、毎月の職員会議で再確認をしている。また、毎日の申し送り時に理念を更に具体化した「職員心得」を読み上げ、日頃の生活の中で、常に理念を意識しながら介護を行うように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し会長さんの訪問や広報紙の配布を受け、年に3～4回ホームの大きな行事に一人暮らし高齢者を招待している。地元の祭りに参加し、苺農家の招待でいちご狩りに出かけたり、桜や藤の見物に出かけ地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果は職員会議で報告し、職員全員で改善に取り組み、ホームの理念の見直しや運営に活かされている。今回の自己評価も職員全員に配布して意見や気づきを出し合い、管理者がとりまとめを行って作成している。評価は日頃のケアの見直しや振り返りの機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員や行政の職員、家族や利用者の参加を得て、ホーム開設当時から2ヶ月に1度定期的に開催されている。ホームの状況や行事の報告を行い、参加者から地域の情報や運営に関する意見をいただき、ホームのサービス向上に活かしている。また、後期高齢者医療制度等について情報提供し、学習している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の案内や利用者の介護保険更新に向いた時は、行政の担当者と情報の交換を行っている。町から依頼される研修生の実習やボランティアの見学等を受け入れるとともに、町の福祉大会には利用者の作品を出品展示し、見学に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は制度を必要とする利用者はいないが、制度についての資料を備え付け、一部の職員が家族の面会時に説明を行っている。必要時には関係機関へつなげるしくみを整えている。今後は全職員で学習する予定にしている。	○	一部の職員は熟知しているが、全職員が制度について理解しているとは言えない。今後は職員会議等の学習で、理解を深められることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日頃の状況を説明し、月に1度は定期的に電話で家族へ報告を行っている。年に4回便りを送付し、職員の異動についても面会時に伝えている。利用者の誕生日や大きな行事には家族の参加を呼びかけている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事に家族の参加を呼びかけ、懇談会を開き意見や要望を聞き取っている。また、職員は日頃の面会時にも積極的に家族の意見を聞き取るように心がけ、家族からの意見は職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。玄関にご意見箱を置いて家族以外の意見も受け入れるように努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少ないが、運営者は法人間の異動は最小限にし、職員の異動や離職は事前に家族や利用者へ伝えている。全職員で会話の機会を多く持ったり、関わりを深めて利用者が不安定にならないように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	運営者は職員採用に当たっては、性別や年齢による排除は行っていない。職員の希望を取り入れて勤務シフトを組み、状況に応じて勤務の交代も認めている。仕事と家庭の両立、社会参加ができるよう、働きやすい環境づくりに配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人共通の理念として、「自立と尊厳を支え地域福祉に貢献する」と掲げており、職員は法人内研修や外部研修に参加し、人権に関して学んでいる。また、毎日の申し送り「職員心得」を交代で読み上げ、介護者として守るべき基本的な方針や態度を共有し、利用者への対応や言葉かけには特に注意をしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は、定期採用の新人は法人全体で研修を行い、各職場で先輩が後輩を指導・育成するしくみを取り入れている。資質向上のため段階に応じて職員の外部研修参加を勧めている。また、毎月地区のグループホームの研修会に参加して情報交換と資質向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は地区のグループホームの研修会や懇談会に参加して交流し、情報交換を行っている。また、他のホームや高齢者施設の行事の案内をもらって、利用者とともに参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や病院へ訪問し、本人や家族に面接している。入居申し込み時に家族から情報を聞き取り、家族と一緒に見学に来てもらっている。入居してからは他の利用者とのコミュニケーションが取れてホームの雰囲気に馴染めるように、職員全員で声かけや見守りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者や家族のように接したいと思っており、会話の中で「お母さん」と呼びかけ、その時々で娘になったり、孫になったりして話を聞いている。また職員が話を聞いてもらい、利用者から慰められたり、励められたり、力をもらっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で言葉や表情から思いを汲み取っている。家族の面会が週1回から月1回はあり、利用者の希望や意向についても伺い実現に向け取り組みを行っている。言葉で訴えることが困難な利用者には、声の張りや繰り返す態度等で利用者の意向を汲みとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員一人が1～2名の利用者を担当することになっているが、全職員が利用者全員を把握し支援している。きめ細かく情報収集し些細な変化も見逃さないようにしている。利用者、家族の意向、かかりつけ医師、関係者からの情報をもとに職員全員で話し合っ利用者本位の介護計画を作成し、利用者、家族に了解を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回全員参加の職員会議で計画の見直しを行っている。利用者の日頃の状況を把握し、健康面や日常生活に変化が生じた時は家族に報告し、職員の意見を取り入れて随時見直しをしている。利用者、家族、必要な関係者からの意見を収集し、現状に合う介護計画書作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月に2回かかりつけ医の往診を受けているが、その他の急変時の受診等で家族の付添いができない時は、職員が支援している。利用者の入院時には、毎日面会に行きまして、洗濯物を届けたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に本人や家族と話し合い、希望に添って決めている。ほとんどの利用者が地域の医院を受診し、受診や月2回の往診支援を行っている。専門医への受診には家族が対応している。利用者の緊急時に対応できるよう協力医との連携を取っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時にホームの方針を説明し、利用者や家族の意向を同意書で確認している。今まで対象者は無いが、医師、職員等の関係者は、利用者、家族の希望を優先し、早期より対応できるように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応、言葉かけには十分に気をつけており、新任職員には職員間で気づいた時には注意しあっている。個人情報や記録は事務所に保管し、取り扱いには細心の注意を払っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、その日その時の利用者の気持ちを最優先し利用者の希望を大切に支援している。買い物や散歩の同行には直ぐに対応している。食後のひとときも、居室で寛ぐ方、後片付けを手伝う方、ソファで昼寝をする方と、それぞれ自由に過ごされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人母体の栄養士が作成したメニューに、その日の利用者の希望を取り入れて変化をもたせている。介助が必要な利用者へ配慮しながら、職員は利用者と一緒に楽しく談笑しながら食卓を囲んでいる。利用者は食材の皮むき、下げ膳、トレー拭き等に関わり、楽しいひと時を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決まっているが、利用者の一人ひとりの希望を大切にして、利用者のその日の気分での入浴を気持ちよく援助している。現在は入浴を拒否される利用者はいない。常に心地よい入浴ができるよう職員は連携しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の花見をかねドライブに行ったり、天気の良い日はホームの周辺を散歩し地域の人々と交流を図っている。洗濯物・おしぼりたたみ、習字や手工芸などを楽しまれている。年1度の町主催の福祉大会には出品の誘いがあり、利用者の作品を出品展示している。またカラオケで午後のひと時を楽しむ方もいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺には田んぼや神社があり、利用者はのんびりと戸外の空気を味わいながら散策している。車の交通量も少なく地域の方から声をかけてもらい散策を楽しんでいる。利用者がホーム内だけで過す事がないように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関をはじめ、どこの場所も鍵はかけていない。外に面した居室の窓もオープンにして、外の空気を取り入れている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間と夜間を想定し年2回の訓練を計画している。消防署が近くにあり、万一の時の通報や利用者の避難の手順など職員は常に確認している。地域への協力を運営推進会議を通じて呼びかけ、地元消防団に協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活記録表や生活リズムパターンシートに食事・水分摂取量、嚥下状態などを記録し、健康状態を確認している。介助が必要な方にも食べやすい工夫をして、自立支援に向け一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井も高く、天窓からは明るく気持ちの良い陽射しが差し込み、ゆったり豊かな気分になれる。壁には利用者や職員による季節の作品や行事の写真が飾られ、目を楽しませている。リビングにはゆったりとしたソファがあり利用者が心地よく過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員が一人ひとりの利用者の特徴ある似顔絵を作成し、居室の入り口に表札代わりに掲げている。居室には思い思いの作品や写真が飾られ、馴染みの家具や装飾品が持ち込まれている。各部屋に懐中電灯が備えられ、外に通じる出入口にはスロープを設置し、安全面の配慮もなされている。</p>		